

川本幸立の まちづくり通信



第14号 09年7月22日発行

編集・発行 市民ネットワークみどり

千葉市緑区おゆみ野3-40-8-101 TEL&FAX 043-293-8011 043-294-8607 (川本)

川本幸立ホームページアドレス:<http://www.k5.dion.ne.jp/~kawamoto/>

森田健作知事就任後はじめての定例県議会(6月11日~7月8日)が開催され、1148億円の補正予算の審議とともに、「完全無所属」「違法献金」など数々の疑惑について質疑を行いました。

1148億円の補正予算に反対!

~なぜ、県民要望トップの医療・福祉・教育・緊急災害対策を優先しないのか?!

約330億円が道路予算

アクアライン「800円化」社会実験の疑問

館山自動車道4車線化(63億円)、北千葉道路(32億円)、酒々井インターチェンジ(8億円)などの高速道路事業の追加予算が加わり、今年度の道路予算(農道を含む)は昨年を上回る1355億円となります。今回の補正で道路分だけで県借金が171億円増えます。館山自動車道4車線化(21km)は総額280億円の内の、直轄事業負担金として63億円を県が支出しますが、館山道の状況は4車線化を緊急に実施しなければならない程の渋滞回数、事故数はなく費用便益比の詳細計算も示されてはいません。また直轄事業負担金の廃止を全国の自治体が政府に求めている現状があり、県が63億円を支出する根拠はありません。

~千葉県だけが10億円の負担

8月から始めるこの社会実験の目的は「湾岸道路の渋滞緩和や交通の円滑化」であり、アクアラインを「首都圏の環状高速道路の南回り部分」とすることです。そのためにはアクアラインの交通量を5~6万台/日と現状の2~3倍に引き上げなければなりません。ところで、県は、政府が全国にバラまく経済危機対策臨時交付金から今年度分として10億円を投入することですが、交通量の設定目標もなく、森田知事がマニフェストに記載した経済効果404億円に県は同意してはいません。さらに受益者負担の原則を無視して、自治体では千葉県だけが費用を負担することになっています。

移動交番より空き交番の解消を!

補正予算では移動交番(交番機能を備えたボックスカー)15台の配備で9700万円が計上されました。移動交番は1966年に導入され、現在も20台ありますが、ほとんど使われてはいません。知事が選挙中に移動交番の設置をマニフェスト(政権公約)にうたったことが予算計上した唯一の理由です。人件費だけでも年間3億円の支出増となる見込みです。移動交番ではなく空き交番を解消し、普通の交番の充実をはかるべきです。

また、高速バスやフェリーなど公共交通に及ぼす影響を検討する中で、南海フェリーの例(和歌山、徳島県2億円の支援金)にみるように今後県のさらなる支出の可能性もあります。その他、木更津にみられるような地域経済の疲弊、温室効果ガスの増加、環境阻害物質による影響など「社会実験」実施前に検討すべきことが山積しています。福祉・医療・教育などより優先して緊急に取り組む事業ではありません。

森田知事の「偽マニフェスト」をそのまま事業化していいのか!

マニフェストとは、政党が政権を獲得した時に必ず実現する政策のことです。

本家の英国では、各政党は数ヶ月から数年かけて民意を反映したマニフェストを作成し、具体的な政策毎に実現に向けた数値目標(目標)、財源、目標年次(期間)、政策の優先順位も明記されます。あいまいな記述は許されません。こうした視点で見ると、森田知事の「マニフェスト」は、「マニフェスト」に値しません。密室で作成されたマニフェストは、選挙中はまったく周知されず、財源の裏づけや数値目標もありませんし、それらを事業化し直ちに実施する明確な根拠は示されてはいません。アクアライン800円化社会実験、成田-羽田リニア構想、移動交番などをそのまま予算化する必要はありません。

知事就任3ヶ月間で発覚した7つのウソ

| 選挙中の公約など | 当選後の姿勢 |
|--------------------------|--|
| 政党より県民第一 | 知事室では、自民県議、業者、企業トップとは頻繁に会うが、市民団体とは多忙を口実に会おうとしない。議会答弁は、官僚がつくる「台本」をただ棒読みするだけ。 |
| 完全無所属 | 自民党衆議院議員候補者の自民支部長として04年～07年に約1億6千万円の企業献金を集め、自分の資金管理団体に約1億4千万円を寄付していたことが判明。厳しい追及でようやく今年7月1日に自民党支部解散届けを東京都選挙管理委員会に提出し、7月3日自民党を離党。 6月県議会で知事の疑惑解明のための特別委員会（百条委員会）の設置にも自民党が反対したように、実態は「自民第一」である。 |
| 剣道2段 | 免状を持たない事実を認めたと、今後も「剣道2段」を名乗ることを否定せず。 |
| 八ツ場ダム事業を精査する。軽々しく判断できない。 | 就任6日目の4月10日、「基本的に賛成だった」と告白し、八ツ場ダム事業（千葉県負担：利息含め760億円）推進を表明。 |
| 三番瀬「ラムサール条約」部分登録に賛成 | 「関係者の意見を聞きながら進める」に後退。事業費1兆円の第二湾岸道路事業推進の邪魔になる登録には消極的な姿勢。 |
| 人間として基本的な躰や常識を養う | 自らの献金問題や虚偽の事実については、「法にのっとって」おればすべて問題なしとして、説明責任も果たさない。政策アドバイザー任命では公私混同が目立つ。「剣道2段」や「完全無所属」問題では生涯にわたって虚偽を貫く覚悟を示す。 |
| 今ある借金は増やさない | 6月補正予算で、県債を238億円発行するなど借金を増やした。不要不急の公共事業をストップしない。 |

知事室の私物化「秘書人」体制

～自らの事務所スタッフで固める

森田知事は、自らの事務所スタッフ3人を特別秘書（約1千万円/年）、政策アドバイザー（2.5～3万円/日）に任命しました。3人が職務に相応しい専門性の持ち主かどうかは疑問で、少なくとも事務所経費で賄っていた人件費を税金で賄おうというのが目的のひとつと思われます。本来、知事室に多数配置されている県職員で事足りるはずですが、この公私混同ぶりに本会議質問で自民議員も「知事室は個人の事務所ではない。県職員は難関を突破して県庁に入ってきている。知事室長がいるのだから、室長中心に仕事をしていただきたい」と注文をつける程です。さらに問題なのは、政策アドバイザーの一人が顧問を務める企業から、森田氏の自民党支部に多額の寄附がなされていたこと、また別の一人が所属する財団の関係団体から森田氏の資金管理団体に多額の講演料が支払われていたことです。これらの寄付などの見返りに知事の立場を利用した「便宜供与」の疑いもあります。予算委員会では会派の小宮清子県議が指摘しましたが、森田知事は「答弁不能」でした。

「台本棒読みドタバタ」答弁

～「自分の言葉で答えるー！」の野次のアらし

知事は、職員がつくる答弁原稿（台本）の棒読みに終始しました。本会議質問は3回までできます。1回目の質問内容は数日前に詳細に通告しますが、2回目、3回目はそうはいきません。質問内容を理解し即「反応」しなければなりません。そこに知事の力量が試されることとなります。しかし、森田知事にはその力がありません。そこで、職員はあらゆる角度から「想定問答」を検討し事前に台本を作成したらしく、この2回目、3回目も「台本」の棒読みとなりました。「台本」は知事の後部座席から手渡されます。しかしその場合のリスクは2つあります。一つは間違った「台本」がわたされることです。二つ目は、「台本」にない質問がなされることです。前者では、質されない項目に「答弁」をしたのが2回ありました。後者の場合は文字通り「立ち往生」となり、質問内容に関係なく1回目の答弁をただ力なく繰り返すだけでした。傍聴席からは「自分の言葉で答えるー！」の野次のアらし。

県議会議場は芝居小屋ではありません。「自分の言葉」を持たなければ知事職をまっとうすることは困難です。隣席の副知事にいちいち確認してから答弁に立つ姿を目にすると、どちらが知事かわからなくなります。

政治ではウソをつかなくて！

・中学生の「政治ではウソをつかないで」の願いに知事は「子どもの意見だから」と答弁

6月11日、毎年恒例の中学生県議会が開かれ、そこで一人の中学生議員が勇気を出して「知事はせめて政治の上だけでもウソをつかないように伝えてください」と発言。6月18日の代表質問で大野博美県議（市民ネット）が「これを聞いてどう思うか」と質問したところ、知事が漏らした言葉が、「子どもの意見であると思っております」。自らの発言が、どれ程、中学生に失望と心の傷を与えるかに思いが至らなかったようです。人に道徳を説く前に知事は自らを律する必要があります。知事はこの中学生の願いにしっかり向き合わねばなりません。

・自称「剣道2段」に子どもたちも「ありえねー」

子どもたちにとっては、「完全無所属」の違法性よりは、自称「剣道2段」のほうが遥かにわかりやすいようです。知人の話でも、自称「剣道2段」が話題となり、中学生たちは「ありえねー」と反応し、そんな人物が知事の座にいることに「ガマンデキナイ！」を連呼したそうです。剣道を習っている小学6年生は、剣道2段を自称することは「できないと思います」とキッパリと言いました。森田知事には、自称「剣道2段」が子どもたちに与える反「道徳・教育」面の影響を思いやる感性すらないようです。